

理数科隊員  
ハンドブック

J.O.C.V

Japan Overseas Cooperation  
Volunteers

KENYA

## 目次

1. はじめに
2. ケニアの教育制度の流れ～8-4-4まで
3. 旧制度と現8-4-4制度の表的比較
4. グラフによる独立以降の小学校、セカンダリーの生徒数  
教師数の変化
5. 教育省の歴史とその付属機関
6. ケニアの教育システムの概要
7. 教師のグレード分けと給料
8. 学費について
9. 生徒の1日の生活
10. 課外活動について
11. Dutyについて
12. 校務分掌について
13. 校則と罰
14. Scheme of work
15. 学校で使う用語

## 1. はじめに

今回、理数科隊員ハンドブックを修正、改定しようとした理由は、前回の改定版が発行された1985年からまったく改訂版が発行されておらず、いくらかの情報が現在使えないことからである。基本的には56年3次隊の南雲 秀雄、57年3次隊の深井 清士隊員の1985年改訂版を元に作成した。このハンドブックは理数科隊員が活動するにあたって最低限必要な情報が含まれており、特に新隊員の貴重な情報源として利用されることを願う。また日本の訓練所の理数科候補生においても赴任前の貴重な情報源となることを期待している。なお、このハンドブックを Up to Date な資料とするため、毎年改訂版を出していくつもりである。

1995年1月

理数科シニア：井ノ原 卓

## 2. ケニアの教育制度の流れ～現8-4-4制度まで

### (a) 独立以前の教育

独立以前のケニアの教育は、システム、構造、内容、設備の全般にわたり、人種隔離的な性格がはっきりしていた。大別としてヨーロッパ人、アジア人に別れる。なお当時、ヨーロッパ人、アジア人の人口はケニアの全人口のほんの3%にすぎなかった。すなわち植民地時代の教育は、ヨーロッパ人、ほんの少数のアジア人のためのものであった。アフリカ人の大多数はヨーロッパ人に利用されるため、搾取されるための底辺の学校に送られていた。ヨーロッパ人による略奪は教育だけに限らず、社会的、経済的にも相当なものであった。例えば、1954年まで1人のアフリカ人も立法評議会に現れなかったし、その他の機関（銀行、工業、商業）のポストにつくことも許されなかった。これらのポストはヨーロッパ人、アジア人にだけに与えられたのである。また当時の教育はヨーロッパ人キリスト教伝道師による一方的な洗脳的教育がほとんどであった。これらのアフリカ人に対する圧迫、反発が独立以降の教育制度を確立する大きな要因となった。

### (b) 独立以降の教育

#### (1) 独立後から1984年までの教育制度の流れ

独立の年1963年、植民地政策による貧困、無知、病気などの国の抱えていた大きな問題を解決すべく、教育における調査委員会(Commission)、Ominde Commissionが設置された。当時詳しい統計的資料が無いなどの批判もあったが、国の発展を担う一つの要因として評価された。このコミッションの9つの目的は

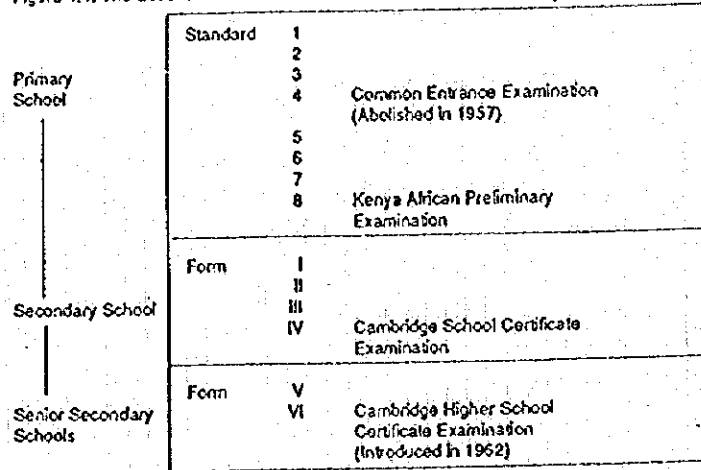
1. 教育は国民性、国民統一を促進しなければならない。
2. 教育はすべてのケニアの人々、要望に差別無く答えなければならない。
3. 公立学校は宗教に関係なく中立でなければならない。しかし学校はいかなる人々のいかなる宗教も尊敬しなければならない。
4. 学校は文化的伝統、また人々を尊敬しなければならない。
5. 過剰な学校内での競争はケニアの伝統的信仰に反し、避けるべきである。学校に来るすべての生徒は、建国のための重要な人材であるということを知らされるべきである。
6. 教育は良識的態度の変化、子供たちの新しい世界への適応性の育成のための手段でなければいけない。同時に人間性も促進されなければならない。
7. 教育は国の発展の必要性を促進しなければならない。
8. 教育は社会的、部族的、宗教的隔たりを無くさなければならない。
9. どのレベルにおける教育においても、最終的ゴールは変化に対する適応性でなければならない。

この調査委員会(Ominde Commission)を元に新しい教育制度が導入されたが、上記の目的にもかかわらず、制度そのものは独立以前とほとんど変わらなかった。すなわち独立後、Ominde

Commissionを通してケニア独自の教育制度を確立しようとしたにもかかわらず、結局は英国の模倣になってしまったといえるだろう。

### 独立以前の教育制度

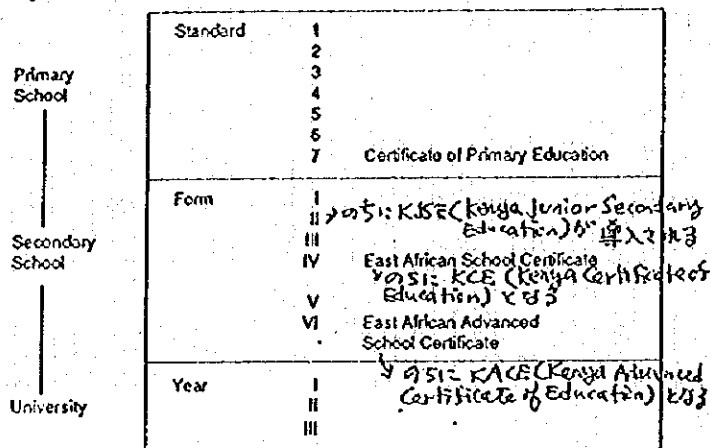
Figure 4.4: The Educational and Examination Structure Proposed in 1952



Source: Kenya Colony and Protectorate, Education Department Annual Report, Government Printer, Nairobi, 1952.

### 独立以降の教育制度 ~ 1984

Figure 4.5: The Educational and Examination Structure in 1965



#### 旧教育制度の内訳、国家試験

結局1985年に8-4-4制度が導入されるまで上の表にもある通り、7-6-3 (7年 Primacy/小学校、6年 Secondary/ 中等学校、3年 University/大学)であった。

行われる国家試験の種類として CPE, KJSE, KCE, KACEと4つあった。

CPE (Certificate of Primary Education) - Pri Std 7 (7年生) で実施

KJSE (Kenya Junior Secondary Education) - Sec Form 2 (2年生) で実施

KCE (Kenya Certificate of Education) - Sec Form 4 (4年生) で実施

KACE (Kenya Advanced Certificate of Education) - Sec Form 6 (6年生) で実施

(i) KJSE (Kenya Junior Secondary Education) について

これは Sec Form 2 の最後に行われる選択可能な国家試験で、\*ハランベースクール、私立の学校からガバメントスクール（政府お抱えの学校）に編入したい生徒、または KJSE の証書を欲しい生徒（将来の進路のために）によって行われた。\*ハランベースクールの説明は後記を参照

(ii) KCE (Kenya Certificate of Education) について

この試験は Sec Form 4 で行われ、この結果の善し悪しによって Form 5.6 に進級できるかどうか決まる。受験生は最低7科目、最高8科目を選択し、その内ベストの6教科の成績が総合評価となる。なお数学、英語は必修科目である。受験生は各科目ポイント（1-9）を与えられ、1ポイントが一番良く、9ポイントが一番悪い。

(例)

Subjects	Maths	Eng	Phy	Kisw	Chem	Bio	Hist	Geo
Points	7	6	5	7	3	2	2	1

\*この内のベストの6科目のポイントの合計が総合成績となる。

$$1(\text{Geo}) + 2(\text{Hist}) + 2(\text{Bio}) + 3(\text{Chem}) + 5(\text{Phy}) + 6(\text{Eng}) = 19$$

トータルポイント 19

このトータルポイントから受験生は別のカテゴリー（ディヴィジョン）に振り分けられていく。

Division I - (6 から 23 ポイント)

Division II - (24 から 33 ポイント)

Division III - (34 から 43 ポイント) すなわちこの例の受験生はディヴィジョンIとなる

Division IV - (44 から 48 ポイント)

48 以上 -- Total Failure

(iii) KACE (Kenya Advanced Certificate of Education) について

Sec Form 6を終える生徒はこの試験を受けることになる。成績の分け方として、Principal passと Subsidiary passに分かれ、Principal passが合格、Subsidiary passが不合格である。

なお Principal pass の内訳としてグレードがA-Eまであり、各教科Aが多いほど大学入学の可能性が高くなる。

\*KCE はセカンダリー5年以降の進級試験であり、またこのレベルを終えたものがOレベルといわれた。KACEは大学の入学試験で、このレベルを終えたものがAレベルといわれた。

Ominde Commission以降、Ndegwa Commission(1971)、National Committee on Educational Objectives and Policies(NCEOP) or the Gachathi Report(1976)と調査委員会が設置されたが、基本的な制度（構造）は変わらなかった。1960年代後半からハランベースクールブーム（

ハランベースクールとは地域共同体レベルで地域住民によって建てられたセカンダリースクールで、最初 TSC ( Teachers Service Commission , 政府管轄の教職員派遣委員会) からの教師派遣はなかったが、1985年の新しい政府の方針により、政府派遣の教師が送られるようになった) によってセカンダリースクールの数が急激に増えたものの、この制度があまりに理論的すぎることで、セカンダリーレベルでのふるい分けが多くケニアの社会、経済要求に答えていないこと(ほとんどの Primary, Secondaryの卒業生が職を得ることができなかった)などの理由からNCEOPで教育制度の見直しが発案された。このNCEOPが1981年の Mackey Commission/Presidential Working Party on the Second University in Kenya (現在の教育制度8-4-4制度の中核となった教育調査委員会)につながっていった。

### (I I) 1985年以降の教育制度(8-4-4制度)

1981年の Mackey Commissionを受けて、ケニア政府は1985年に新制度8-4-4を導入する運びとなった。新制度における教育目標は下記の通りである。

1. 国の発展のための教育
2. 国の統一のための教育
3. 生活に密着した、実践的な教育
4. 技術的、職業訓練的トレーニングの重視
5. 自己独立能力の育成

これらの目標を見ると、いくつかの目標は Ominde Commissionと重なるが、根本的に前制度と違うのは、3、4、5から分かるように技術系(理数科、農業を含む)、職業訓練を重視していることである。つまり卒業後の雇用拡大に結びつく制度を目標としている。

#### (i) 8-4-4制度の内訳

- 8年-Primary School (小学校)  
学費は無料(しかし義務教育ではない)
- 4年-Secondary School (中等学校、学費有料)
- 4年-University (大学、学費一部有料)

#### (ii) 国家試験(National Examination)の種類

1. KCPE(Kenya Certificate of Primary Education)  
Primary 終了年度8年生(Standard 8)によって行われる。児童は成績A-Eを各教科与えられ、その総合成績の善し悪しによってセカンダリースクールに振り分けられていく。現在の統計によると約400,000人の児童がKCPEを受け、そのうち180,000人がセカンダリー入学可能ということである。なお小学校進学率は95%、卒業率は男子45%、女子36%である。
2. KCSE(Kenya Certificate of Secondary Education)  
Secondary 終了年度4年生(Form 4)によって行われる。生徒は成績A-Eを各教科与

えられ、その総合成績の善し悪しによって大学の進学が決まる。選択科目は学校によってカリキュラムの選び方によって違うが、科目数は9科目である。一般的に総合評価C+が大学入学最低基準であったが、現在はB-もしくはそれ以上の評価が必要なようである。小学校と同じく統計によると、毎年約140,000の生徒がKCSEを受け、そのうち40,000人が大学入学可能だということである。

\*理科科目、Pure Scienceと Physical, Biological Scienceの違いについて

セカンダリーの理科の科目は、化学、生物、物理があるが、これらの科目の取り方に2種類（Pure Science/Physical, Biological Science）ある。Pure Scienceでは KCSE の試験において各教科成績が与えられ、また試験自体の所要時間も各教科2時間である。Physical, Biological Science も基本的には化学、物理、生物と同じ教科を学ぶことになるが、KCSEにおいて、化学、物理は Physical Science 1科目として、生物は Biological Science 1科目として成績を与えられる。試験の所要時間は各科目1時間半である。カリキュラムの内容において、Pure Scienceの方がトピックも多く、深いといわれているが、そんなには変わらないと思う。個人的には試験の所要時間、KCSEの成績の与えられ方（Pure では全理科3科目成績が別々に与えられるが、Physical, Biological Science では3科目試験を行うが、成績は Physical Science（化学、物理）、Biological Science（生物）の2科目しか最終的に与えられない）から小、中規模のハランベースクールにおいても Pure Science を取る方が有利だと思う。なお化学、生物、物理は Pure, Physical/Biological Science両方において Practicals（実験の試験）が KCSE で行われる。

\*成績評価A-Eの内訳

A, A-	B+, B, B-	C+, C, C-	D+, D, D-	E
Very good	Good	Average	Weak	Poor

\*試験の時期

KCSEは10月下旬から約3週間、KCPEは11月中旬に3日間行われる。KCPEの結果はその次の年の1月に、KCSEの結果は2月に発表される。

なお学校によっては Form3, 4の2学期中にMOCK（模擬試験）をDistrict, Province または学校ごとに行う。



3. 旧制度と現8-4-4制度の表的比較

教育レベル	Primary 7 Years							Secondary 6 Years						University 3 Years			旧制度
学年	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	
国家試験							*		*		*		*				

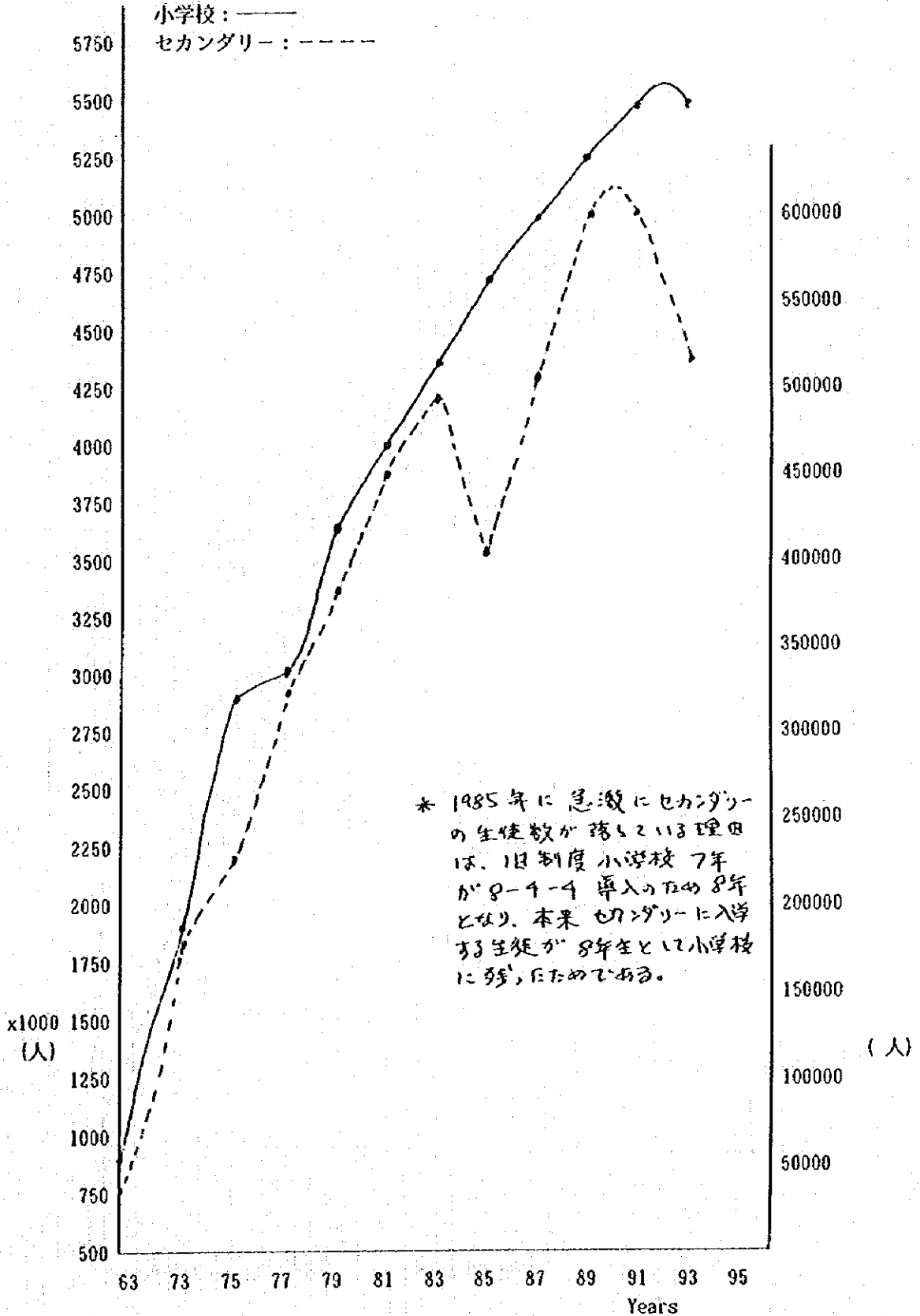
教育レベル	Primary 8 Years								Secondary 4 Years				University 4 Years				現制度
学年	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	1	2	3	4	
国家試験								*				*					

(注) \*は考査の有無、時期を示す

4. グラフによる独立以降の小学校、セカンダリーの生徒数、教師数の変化

グラフA：小学校、セカンダリーの生徒、児童数の年代的变化

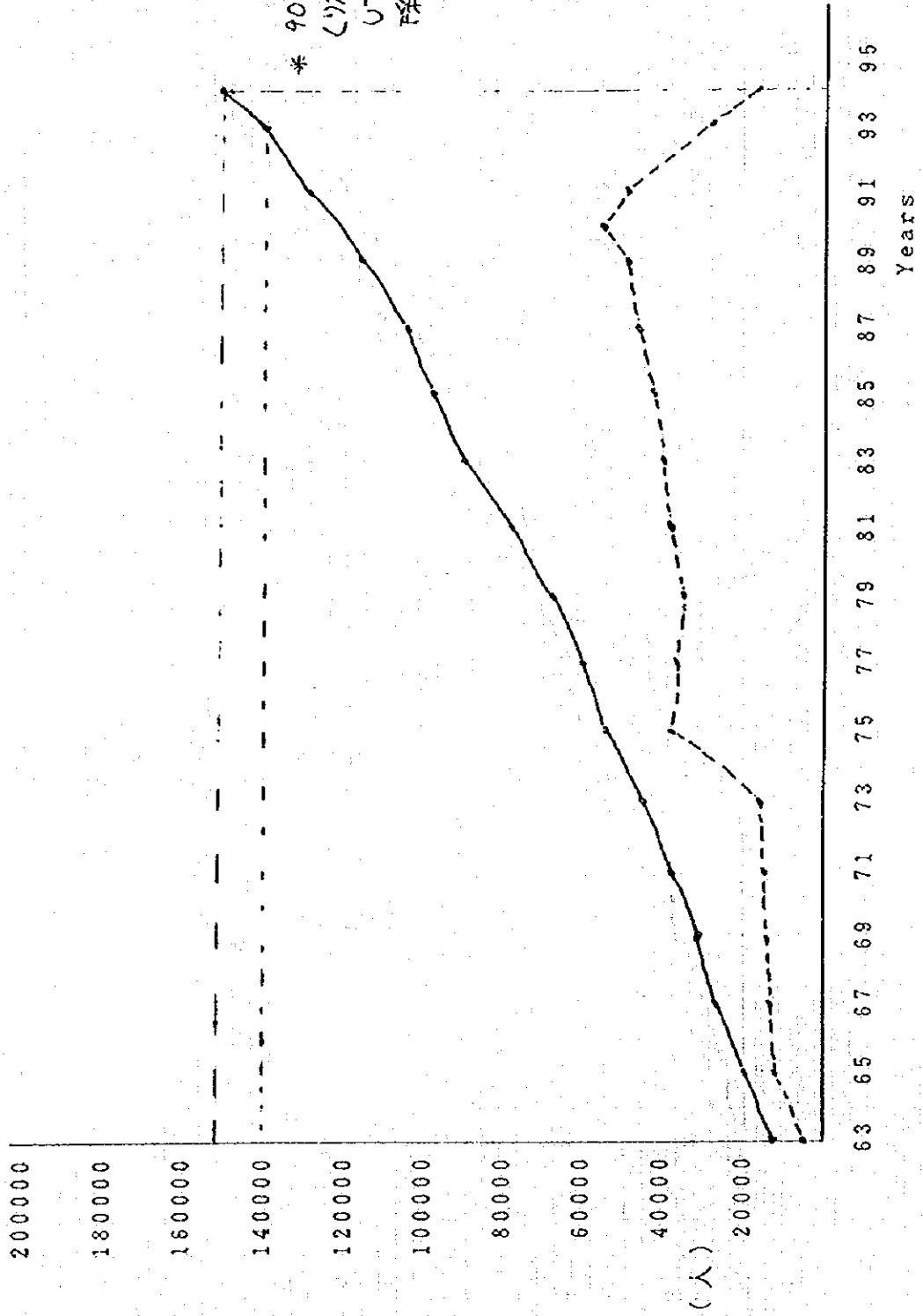
\*小学校は左の数字、セカンダリーは右の数字（人）を利用



グラフB：小学校教師数（Trained, Untrained）の年代的变化

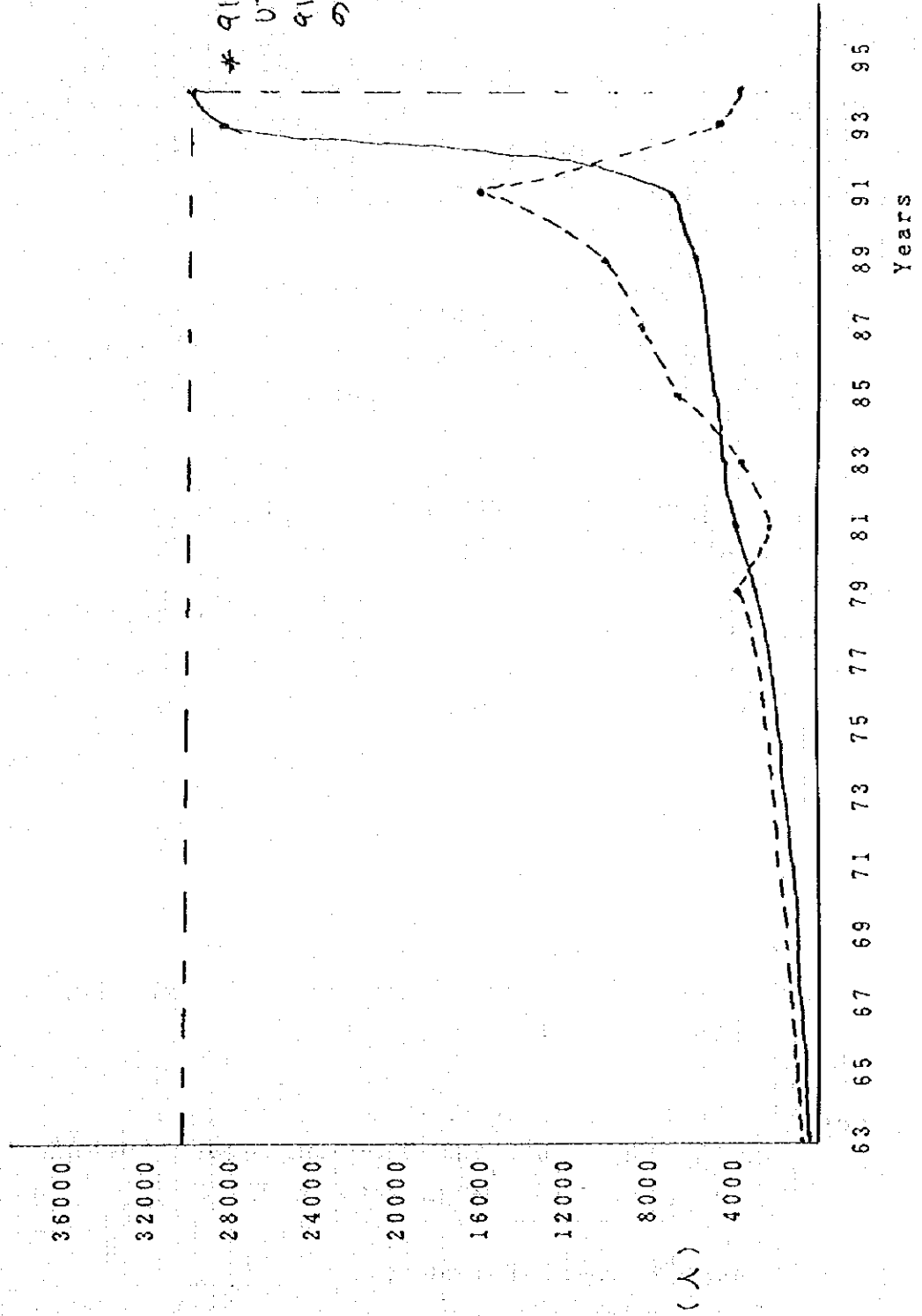
Trained : ———

Untrained : - - - - -



グラフC：セカンダリ－教師数（Trained, Untrained）の年代的变化

Trained : ———  
 Untrained : - - - - -



## 5. 教育省 ( Ministry of Education ) の歴史とその付属機関

### (a) 教育省 ( Ministry of Education ) の歴史

独立後、教育省は教育一般 ( 初等教育から高等教育まで ) の責任を担ってきたが、1979年に教育一般は一つの省ではまかないきれないという理由で2つの省に分かれた。これらは Ministry of Basic Education と Ministry of Higher Education である。しかし政府は1983年にこの2つの省を1つの省 ( Ministry of Education, Science and Technology ) とし、いわゆるテクニカルスクール ( Youth polytechnic など ) も担当することとなった。しかし Jua Kali プログラム ( Jua Kali はスワヒリ語で暑い太陽という意味であるが、職業訓練の技術を身につける手段、自営の能力を得る手段として政府が奨励しているプログラム ) によって職業訓練校が急激に増え、結局1987年にこの省は Ministry of Education と Ministry of Research, Technical Training and Technology の2省に分かれた。

### (b) 教育省付属機関

#### (i) Teachers Service Commission ( TSC )

TSC ( 教職員派遣委員会 ) は一般に大学以外の教師の雇用を担当している。またこの組織は教員の給与、解雇、規律、住居手当等も担当している。

#### (ii) Kenya National Examination Council ( KNEC )

この機関は国会条例によって設立された、すべての国家試験を管理する機関である。もちろん KCPE, KCSE もここで作られる。

#### (iii) KIE ( Kenya Institute of Education )

KIE は教育全般について ( 教育研修、成人教育なども含む ) の計画立案、教材、カリキュラム研究、教育番組の製作にあたる。

#### (iv) KLB ( Kenya Literature Bureau )

KLB は1977年に設立された機関で、教育関係の本、雑誌の出版、配布、また有能な作家への寄付などを行っている。

#### (v) Jomo Kenyatta Foundation

この組織は1966年に設立された。教育関係の本、雑誌の出版、配布を行っている。また有能な生徒に奨学金を提供している。

#### (vi) Kenya Education Staff Institute ( KESI )

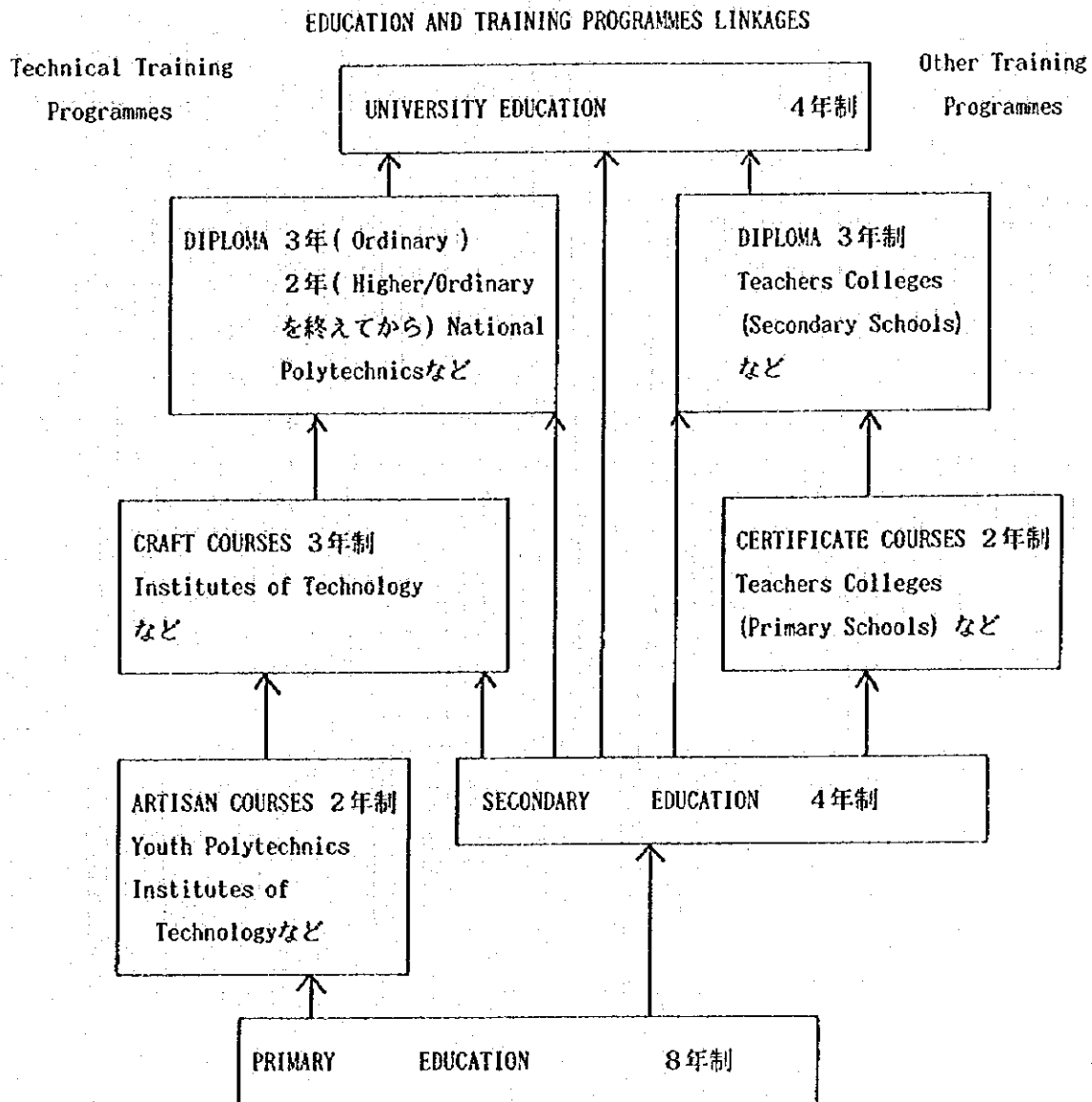
KESI は1981年に教育関係の官僚の育成のために設立された。教育省官僚のためのインサーストレイニング ( 通信講座のようなもの ) を担当している。

#### (vii) Commission for Higher Education ( CHE )

CHE は1985年の政府条例 ( Universities Act ) により設立された。名前の通りこの

委員会は高等教育一般の運営、計画、財政すべてを担当している。

## 6. ケニアの教育システムの概要



### (a) Primary Education

独立後の学費無償化、給食ミルク無償化などにより就学者数は大きく伸び、1992年には550万人を越えたが、90、91年の世界銀行の\*リストラ (SAP,s) の政府の対策としてコストシェアリング (政府の教育予算カットのための政策で、親にももっと教育資金を出させるというもの) を導入し、親への資金的負担が大きくなり、以降、数が減少している。セカンダリーにおいても同じことが言える。\*前ページのグラフ参照

この国の教育、初等教育、中等教育、高等教育と比べた場合、まず初等教育に問題があるように思われる。実際問題としてセカンダリーの生徒のレベルを見た場合、基本的な計算問題 (小

学校3、4年生レベル) もできない生徒が非常に多い。結局セカンダリーレベルにおいて小学校の復習を一からやり直すという結果になっている。また語学の問題も見逃せない。ケニアでは基本的に小学校中学年から英語を公用語としてすべての教科で使うのだが、特に田舎の方の子供たちは英語を使う機会が少なく、(スワヒリ語、また単一部族しか住んでいない場所ではその部族語が使われる) 児童、生徒の学習に大きな打撃を与えている。すなわち教科のトピックを理解する以前に教科の授業で使われる英語自体が解らないので話にならないのである。次に上げられる問題としては、親の教育に対する理解度である。これは初等、中等教育一般に考えられる問題であるが、特に初等教育においては重大な問題の一つである。田舎の方の親たちはまだまだ教育の必要性を感じていない。しかし一概に親の責任であるとは言いがたい。というのはこれらの地域においてはいくら初等、中等教育を終えても将来の保証は何もないのである。言い換えれば学校教育からは将来生活の要となるものは得られないのである。これは現8-4-4制度の目標に反するかもしれないが、実際問題として僻地の学校では施設、器具、資材、人材の不足(ほとんどの僻地の学校は泥でできた窓もない牛小屋のような狭い場所で机もいすもなく、児童は地面に座って授業を聞いているのが現状である。またほとんどの児童は教科書も持っていない) により、職業訓練的なカリキュラムを達成するのは不可能なのである。それよりも家の仕事(農業、漁業)を早く覚えさせて息子、娘たちに家を継がせた方が良くと親たちは考えるのである。これらの事実から特に僻地の初等教育の改良(親たちの理解を得るべくこれらの地域の学校のインフラの充実、将来児童たちが生活の要となるような技術を取得できるプログラムの導入、またこれらのプログラムを実行できる有能な教師の育成)が必要と考えられる。

\*SAP.s( Structural Adjustment Programmes ) について

SAP.s は、世界銀行(ワールドバンク)のアフリカ諸国に対する全部門への援助(教育部門だけでない)の見直し(リストラ)で、ケニアにおいては教育部門が特に打撃を受けているといわれている。ワールドバンクの言い分としては、ケニアは教育部門に政府予算をかけ過ぎて(政府予算の約40%、他のアフリカ諸国の平均は約20%)というもので、他のアフリカ諸国のレベル(20%まで下げないと援助をストップするというのだ。

\*カリキュラムは次ページ参照

**PRIMARY EDUCATION CURRICULUM**

<b>SUBJECTS</b>	<b>LOWER PRIMARY PERIODS PER WEEK</b>	<b>UPPER PRIMARY PERIODS PER WEEK</b>	<b>EXAMINATION ( KCPE )</b>
1. English	5	7	2 papers
2. Kiswahili	5	4	2 papers
3. Mathematics	5	6	1 paper
4. Science	3	3	1 paper for Science
5. Agriculture	-	3	and Agriculture
6. Art	-	3	1 paper for Art, Craft
7. Craft	-	4	and Music
8. Home Science	-	4	
9. Music	2	2	
10. Geography			
History and Civics	2	4	1 paper for Geography,
11. Religious Education	4	3	History, Civics and
			Religious Education
12. Pastoral Programme	1	1	----
13. Physical Education	5	3	----
14. Business Education	-	3	1 paper for Home Science
			and Business Education
15. Art and Craft	3	-	----
16. Mother Tongue	5	-	----
<b>TOTAL</b>	<b>40</b>	<b>50</b>	<b>9 papers</b>

**NOTES:**

Each lesson in the lower primary is 30 minutes duration

Each lesson in the upper primary is 35 minutes duration

Source: Ministry of Education



## (b) Secondary Education

### (i) ハランベースクールの歴史

ケニアの教育の歴史を語る時、ハランベースピリットを述べないわけにはいけない。もともとの Harambee の語源はスワヒリ語で、その意味は、みんなで何かできることをしようということである。この観念から、ハランベは地域社会のプロジェクト（病院、水道、学校など）を始める方法、力として使われるようになった。独立直後、ケニア政府は経済的、または教育においての有能な資格のある人材の不足に悩まされ、ケニアの初代大統領、Mzee Jomo Kenyatta の独立後最初のスピーチにおいて、ハランベースピリットがケニア全国民に伝えられた。それ以降、地域の政治家、有力者によってハランベースピリットが広まり、地域社会、住民の力によって小さい規模ながら学校が建てられるようになった。このような建設、運営、教師派遣すべて地域レベルで賄われている学校がハランベースクールと呼ばれるようになったわけである。

このようにハランベースクールは民衆によって自由に建てられ、増えていったが、1968年の政府の指導（Education Act）によってこのようなハランベースクールも教育省に登録され、政府のカリキュラムに従わなければいけなくなった。独立直後ほんの50しかなかったハランベースカンダリースクールが、このような民衆の動きによって1974年には600、1985年にはその倍以上となった。しかしこのようなハランベースクールが増えていく過程において、学校自体まったく政府の援助を受けていないことから経済的に無理があり、成績にも影響するという声が高まってきた。政府はこのようなハランベースクールの現状を考慮し、1985年からハランベースクールの公立学校と認め、少なくとも1人の資格のある教師を政府から赴任させるという方針を決定した。公式にはこの政策導入以降ハランベースクールという言葉は使われなくなった。しかし実際には教師、民衆は、政府から教師が派遣されている旧ハランベースクールもハランベースクールと現在も呼んでいる。

### (ii) セカンダリースクールの種類

現在存在するセカンダリースクールはすべて政府に登録され、政府のカリキュラムに従わなければならない。

セカンダリースクールは大きく分けてプライベートスクールとパブリックスクールの2つに分けられる。プライベートスクールは名前の通り個人によって建てられた学校で、すべての資金は学校、個人によって賄われる。学校は教育省によって登録されなければならない。

パブリックスクールは下記の種類がある。

#### 1. National Schools

これらは政府によって建てられた国立学校で、すべての運営が政府によって行われている。1995年現在国立学校は全国に17ある。

#### 2. Maintained Schools

これらは Provincial, District Schoolsなどの、学校の施設のメンテナンスは政府から補助金が出ている学校である。1995年現在 Provincial Schools は全国に399ある。

#### 3. Assisted Schools

これらはいくらかの補助金を政府、教育省からもらっている学校である。もし学校がTS

Cから教師を受け取っているならこの学校は Assisted Harambee School となる。資金的援助は Maintained Schools に比べると少ない。ほとんどの隊員が派遣されている学校はこのカテゴリーに入る。

(その他) Harambee Schools

これらは前記のように、地域レベルで教会、政治家、親たちの援助によって建てられた学校であるが、1985年のハランベースクールの公立化以来基本的には現在存在しないと考えてよい。

\*パブリックスクールはこのように3つに分けられるが、近年導入された政府の政策、コストシェアリング（政府が学校に一切補助金を出さないという政策）によって、基本的にはこの3つのカテゴリーの学校がすべてがパブリックスクールというカテゴリーにあてはまるようになってしまった。つまり National Schools も Maintained Schools も Assisted Schools も政府から金銭的援助を受けないことから、同じカテゴリーに入るということである。もし違いがあるとすれば、生徒の選抜において、National, District, Former Harambee の順に成績の良い生徒を選抜できるということである。なお 1995 年現在 District, Former Harambee Schoolsの総数は 2307 である。

(iii)セカンダリーの生徒の KCPE( Kenya Certificate of Primary Education ) からの選抜制度 ( Quota System ) について

この制度はセカンダリーの生徒の選抜において、地域的格差をなくそうとする目的において導入されたものである。制度によると、Provincial Schoolsでは 85%の生徒が学校の所在する District から選抜、District Schoolsにおいては 100% の生徒が学校の所在する

District から選抜、National Schoolsにおいては District の学校の数によって地元の生徒を選抜する率が違う。なおこの制度は大学の入学試験、KCSE( Kenya Certificate of Education )からの生徒選抜には使われていない。

(iv) セカンダリースクールの抱えている問題

(1) 大規模の学校が抱えている問題

National Schoolsのような大規模の学校は今まで政府からの援助があったため、規模的にも組織的にもしっかりしている。しかしながら、コストシェアリング政策によって金銭的援助がカットされたため、現存する施設、器具を学校、親、学校運営委員会自身でメンテナンスするのは難しく、多くの学校ではメンテナンスされずに放置されているのが現状である。また生徒、学校運営委員会、PTAのメンバーが全国各地から集まってきており、今までは集会、会議などの際にはこれらのメンバーに補助金が出ていたものの、コストシェアリング政策によってカットされ、このような機会を持つことが難しくなり、学校の運営自体に影響している。

(2) 小、中規模の学校が抱えている問題

これらの学校、特に隊員の派遣されている旧ハランベースクールの抱えている問題は、大規模の学校の問題とは大きく違う。これらの学校は今までも基本的に政府からの金銭的、物理的援助を受けていなかったことから施設、インフラの状態が非常に悪い。ほとんどの学校では実験器具、薬品、教科書が足りなく、学校の建物も窓ガラス、天井もない状態がほとんどである。教科書においては、政府のコストシェアリング政策によって親自身が子供に供給することとなっているが、これらの旧ハランベースクールが所在している地域は貧しく、とても親が子供の教科書を買ってやるができないのが現状である。

### (3) 教員の不足

文科系の科目における教師数は、科目によっては過剰なくらいで問題はない。教師数が不足している科目は理数科、英語である。この問題は 1985 年以降ハランベースクールを公立化、また資格のある教師を送り出したことからさらに深刻になった。この結果ほとんどのセカンダリースクールが学校雇いの講師を雇わなければいけない状況に追い込まれている。1994年の統計によると最低5年はこれらの科目の教師数が十分になるのにかかるそうである。

### (4) 教員のモラル、贈収賄の習慣

この問題は教育制度、システム自体に根づいており、なかなか表面に出てこないことから一番大きい問題と言える。

まず教員自体の質であるが、教育者であるという自覚を持った教師が少ないように思われる。というのは大多数の教師はサイドビジネスを持っており、学校の仕事よりもサイドビジネスの方を優先する傾向がある。言い換えれば生徒のことを本当に考えている教師が少ないのである。彼らのほとんどは一生教鞭をとるとは考えていない。また学校の教師が生徒を誘惑、脅迫し、性行為を強要、その結果妊娠させるというケースも非常に多い。校長においても学校の経理、人事等権力すべてが自分の手中にあることから、ほとんどの校長が学校資金を比較的容易に着服できる。過去の例においては、隊員が配属先の校長の不正を追求したため、隊員が危険な状況に追い込まれることがあった。

\*セカンダリーのカリキュラム、教師数は次ページ参照

TEACHER DEFICITS BY AREA OF SPECIALIZATION, SECONDARY SCHOOLS, 1994

PROVINCE	ENGLISH	KISWAHILI	HISTORY	GEOGRAPHY	C R E	MATHS	PHYSICS	CHEMISTRY	BIOLOGY	AGRICULTURE	H/SCIENCE	ECONOMICS	COMMERCE	FRENCH	MUSIC	D/DESIGN	GERMAN	TYP/SECRETAR	F/ART	ACCOUNTS	LRE	W/WORK	METAL/WORK	B/CONSTRUCT	ARABIC	ELECTRICITY	TOTAL
CENTRAL	160	000	11	21	11	108	251	133	114	133	9	-	38	4	3	-	-	5	1	36	-	2	-	-	-	-	1149
COAST	75	3	7	1	7	50	60	56	36	30	15	-	22	9	6	1	-	1	1	23	20	-	-	-	-	-	423
E/TERN	229	52	15	36	35	207	235	161	106	103	12	13	15	3	2	5	1	4	1	14	3	1	-	3	-	5	1261
* NAIROBI	-	-	-	-	-	10	14	16	-	3	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	1	52
NYANZA	220	88	15	13	30	156	238	165	137	132	17	10	36	5	10	34	-	1	4	39	-	4	1	-	-	-	1325
N/EAST	15	3	4	2	1	4	9	2	5	4	3	-	2	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	5	63	
R/VALY	182	53	8	10	11	105	144	120	83	85	10	6	30	5	3	2	1	2	5	30	-	1	-	-	-	-	896
W/TERN	85	28	10	10	8	67	85	50	73	24	12	8	51	4	5	4	-	1	4	26	2	2	-	-	-	-	559
TOTAL	* 975	327	70	93	103	707	1036	703	354	514	78	37	194	35	29	16	3	15	16	169	29	10	1	3	5	6	5728

\* 特に英語、理数科の教師が不足している。  
\* ナイロビとその他の地域との格差も著しい。

Source: Teachers Service Commission, 1994

**Secondary Education Curriculum**

Subject Group	Subjects
I - Languages	English Kiswahili
II - Mathematics	Mathematics
III - Sciences	Biology Physics Chemistry Physical Science Biological Science
IV - Social Sciences/ Humanities	Geography History and Government Religious Education( CRE, IRE, HRE ) Social Education & Ethics
V - Applied/Practical Skills Subjects	Woodwork Metalwork Leatherwork Building Construction Ceramics Power Mechanics Drawing and Design Aviation Technology Electricity Agriculture Home Science Motor Mechanics Art & Design
VI - Other Subjects	Arabic French German Music Accounting

	Commerce Economics Typing and Office Practice
--	---

**Form 1 & 2**

All students will offer and timetable for thirteen subjects to be covered in 45 periods per week.

	<u>Periods per week</u>
1. English	6
2. Mathematics	6
3. Kiswahili	5
4. Biology	3
5. Physics	3
6. Chemistry	3
7. History & Government	3
8. CRE/IRE/HRE	3
9. Social Education and Ethics	2
10. Geography	3
11. Applied Subject ( Group V )	4
12. Other subject ( Group VI )	3
13. Physical Education	<u>1</u>
	45 periods
	per week

**Form 3 & 4**

There are 2 modalities of 5 approved alternative curriculum organizations each. Modality I is based on 8 teaching subjects. Modality II is based on 9 teaching subjects.

**MODALITY ONE AND FIVE ALTERNATIVE CURRICULUM ORGANIZATIONS  
BASED ON EIGHT TEACHING SUBJECTS**

ALTERNATIVE ONE

1. English	8 periods
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	6
4. Physical Science	6
5. Biological Science	4
6. One Humanity	4
7. One Applied ( Group V )	5
8. One other ( Group VI )	4
9. Physical Education	<u>1</u>
	45

ALTERNATIVE TWO

1. English	8 periods
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	6
4. Chemistry	5
5. Physics	5
6. One humanity	4
7. One Applied	5
8. One other	4
9. Physical Education	<u>1</u>
	45

ALTERNATIVE THREE

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	6
4. Chemistry	5
5. Physics	5
6. Biology	5
7. One humanity	4
8. One Applied	5
or One other subjects	
9. Physical Education	<u>1</u>
	46

ALTERNATIVE FOUR

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	6
4. Chemistry	5
5. Biology	5
6. One humanity	4
7. One Applied	5
8. One other	4
9. Physical education	<u>1</u>
	45

ALTERNATIVE FIVE

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	6
4. Physical Science	6
5. Biological Science	4
6/7. Any two humanities	8 ( 4 periods each )
8. One Applied	5
or One other subject	
9. Physical education	<u>1</u>
	45

MODALITY TWO BASED ON NINE TEACHING SUBJECTS

ALTERNATIVE ONE

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	5
4. Physical Science	6
5. Biological Science	3
6/7. Any two humanities/ Social Sciences	6 (3 each)
8. Applied subject	5
9. One other subject	4
10. Physical education	<u>1</u>
	45

ALTERNATIVE TWO

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	5
4. Chemistry	4
5. Physics	4
6. One humanity/Social	3
7. One Applied	5
8/9. Any two other subjects	8 (4 each)
10. Physical Education	<u>1</u>
	45

ALTERNATIVE THREE

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	5
4. Chemistry	4
5. Physics	4
6. Biology	4
7. One humanity	3
8. One Applied	5
9. One other subject	4
10. Physical Education	<u>1</u>
	45

ALTERNATIVE FOUR

1. English	8
2. Mathematics	7
3. Kiswahili	5
4. Chemistry	4
5. Biology	4
6. One humanity	3
7/8. Any two Applied	10 (5 each)
9. One other subject	4
10. Physical Education	<u>1</u>
	46

ALTERNATIVE FIVE

1. English	8	9. One Applied	
2. Mathematics	7	or One other subject	5
3. Kiswahili	5	10. Physical Education	<u>1</u>
4. Physical Science	6		44
5. Biological Science	3	*Each lesson is 40 minutes Duration.	
6. History and Government	3		
7. Geography	3	Source : Ministry of Education	
8. Religious Education or Social Ethics	3		



(c) University Education

ケニアの大学一号はナイロビ大学で1956年に設立された。現在公立大学 ( Public Universities ) は6校あり、その内の1つ、Maseno University College は University College で大学とはまだ政府により認められていない。詳しい大学名、学部の種類は次ページの表参照  
私立大学は、公立大学に比べ比較的新しく設立されたものが多く、ほとんどの大学が政府より Charter (大学の憲章) を取得していない。現在11ある私立大学のうち3校 ( The University of Eastern Africa, The Catholic University of Eastern Africa, Day Star University ) が Charter を取得している。詳細は次ページを参照

公立大学入学者は政府より育英資金が支給されていたが、90年、91年の世界銀行の SAP.s の対策、コストシェアリングによりカットされ、現在においては年間数千シリングの学費を払うことになっている。この資金的問題、また卒業後の雇用問題などの要因から大学の生徒数の伸びは頭打ちになっている。個人的には、大学入学有資格者の家族的バックグラウンドを調べる組織を作り、裕福な家族出身者は奨学金がもらえないが、貧しい家族出身者は奨学金をもらえるようにすれば理想的だと思っていたが、最近の新聞記事によると、政府も将来的にこのような制度を導入する意向があるそうである。

また公立大学においてはストライキが最近問題になった。公立大学は1年以上閉鎖となり、親たちは公立大学に子供を送りたがらなく、私立大学に送るという傾向が続いている。しかしもちろん私立大学へ行けるのは、学費が高額なことから裕福な家族出身の生徒である。

\*大学の生徒数も次ページの表を参照

Public Universities

University	Faculty
Nairobi	Agriculture Veterinary Medicine Architecture, Design and Development Engineering Science Medicine Arts Commerce Law
Kenyatta	Arts Education Science
Egerton	Arts and Social Sciences Agriculture Education and Human resources Science
Moi	Education Forest Resources and Wildlife Management Information Science Health Sciences Science Technology
Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology	Engineering Agriculture Science
Maseno University College	Arts Education Science

**Private Universities**

University	Faculty/Department
Pan Africa Christian College	Department of Bible and Theology
The East Africa School of Theology	Department of Bible and Theology
Kenya Highlands Bible College	Department of Bible Studies Department of Business Studies
Daystar University	Department of Business Administration and Management Department of Religious Studies
Nairobi International School of Theology	Department of Religious Studies
University of Eastern Africa, Baraton	School of Business School of Humanities and Social Sciences School of Science and Technology
United States International University	Department of Business Management Department of Accounting Department of International Relations Department of Business Economics Department of Management Information Systems Department of Mathematics and Business Statistics
Scott Theological College	Department of Bible Studies
St. Paul's United Theological College	Department of Religious Studies Department of Business Administration and Management
Catholic University Eastern Africa	Faculty of Theology Faculty of Philosophy Faculty of Social Sciences

The Africa Nazarene University	Faculty of Home Economics
	Faculty of Science and Agriculture
	Faculty of Education and Business Administration
	Administration
	Faculty of Arts

#### PHENOMENAL EXPANSION IN PUBLIC UNIVERSITY EDUCATION IN KENYA

Academic Year	Net Enrollment
1964/65	600
1970/71	3000
1980/81	9237
1990/91	38838
1992/93	40000
1993/94	41000

Ministry of Education Handbook 1994

#### (d) Technical Training Programmes ( Technical Institutions )

8-4-4制度ではカリキュラムの中で職業訓練に力を入れていることから、制度導入後、たくさんの Technical Institutions が建てられた。しかし施設、教育ともに充分でないとの批判が多い。

Technical Institutionsには4種類 National Polytechnics, Institutes of Technology, Technical Training Institutes, と Youth Polytechnicsがある。

##### ( i ) National Polytechnics

このカテゴリーにはほんの3つの Polytechnics しかない。これらは Kenya Polytechnic ( Nairobi ), Mombasa Polytechnic ( Mombasa ), Eldoret Polytechnic ( Eldoret ) である。基本的に入学の資格としては KCSE の総合評価C-以上である。学習期間は3年である。生徒は最終学年に国家試験を受け、受ければ Diploma が与えられる。3年間終了後、2年間の Higher Diploma のコースに進む者や、同じく2年コースの Technical Teachers College に進み、Technical Teacher ( 技術の教師 ) になる者もいる。

##### ( ii ) Institutes of Technology

現在24の Institutes がある。入学の資格としては KCSE 総合成績D以上となっている。基本的に Craft Course の3年制である。すべての Institutes は教育省によって登録されており、卒業時に Kenya National Examination Council によって設定された Trade

Testがある。

(iii) Technical Training Institutes

このカテゴリーの Institutes には Artisan Course と Craft Course があり、入学資格は Artisan Course は小学校卒業時の国家試験 KCPE 結果保持者、Craft Course はセカンダリー KCSE 終了者ということである。Artisan Course は 2 年制で、Craft Course は 3 年制である。終了時に Kenya National Examination Council によって設定された Trade Test がある。現在 19 の Institutes がある。

(iv) Youth Polytechnics

小学校卒業生対象の 2 年制の Artisan Course である。コース終了時に KNEC による試験があり、Certificate が与えられる。全国に 500 校以上ある。

(e) Teacher Training

Teacher Training Colleges には小学校教師育成のカレッジとセカンダリー教師育成のカレッジの 2 種類ある。セカンダリーのカレッジは 5 校ある。

1. Kenya Science Teachers College ( Science Subjects )
2. Kenya Technical Teachers College ( Technical Subjects )
3. Siriba Teachers College ( Art Subjects )
4. Kagumo Teachers College ( Art Subjects )
5. Moi Science Teachers College ( Science Subjects )

入学資格はセカンダリー卒業生 KCSE D+ 以上で、3 年制である。終了時の試験に合格して、Diploma が与えられる。

小学校教師育成カレッジは現在全国に 20 あり、Pre-Service (通学制) と In-Service (通信制) がある。通信制は 3 年制、通学制は 2 年制となっている。

In-Service は UT ( Untrained Teacher ) のために設立され、受験生は仕事をやりながらラジオの国営放送を聞いて問題用紙を解答し、KIE に送付し、最終的に合格すると、Certificate を取得でき、Trained Teacher として働けるというものである。Pre-Service においても同じで、卒業時に Certificate を取得し、Trained Teacher として働くことになる。

入学者は KCPE, KCSE の成績によって現在 3 つのグレード ( P3, P2, P1 ) に分けられる。カレッジ終了後も入学時のグレードの教師として赴任することになる。

\* このグレード分けの詳細は次の教師のグレード分けと給料、を参照

## 7. 教師のグレード分けと給料

一般的にT S C派遣の教師は Untrained teacher (教育省認定の教師資格を持っていないもの) と Trained teachers (資格を持っているもの) に分かれる。

### (a) Untrained teacher ( UT ) のカテゴリー

1. UT with/without KCPE \*1,2は一般的に小学校の教師である。
2. UT with KJSE/KCE Div IV  
KCSE Grade D+ and below
3. UT with KCE Div I - III, KCSE C, C-, D  
KACE/KCSE Grade C+ and above
4. UT technical teacher (技術系の教師)
5. Untrained graduate teacher (大卒)  
\* UT technicalと UT graduateはグレード的 (給料的) に他の UT に比べて相当上である。

### (b) Trained teacher とそのカテゴリー

1. P4 teacher - without CPE/KCPE \* 現在 P4 は事実上いなくなったと考えてよい。
  2. P3 teacher - with CPE/KCPE
  3. P2 teacher - with KJSE/KCE Div IV  
KCSE D plain
  4. P1 teacher - with KCE Div I - III  
KCSE D+ 以上
  5. S1 teacher - with Diploma
  6. Graduate/Approved/Technical teacher III
  7. Graduate/Approved/Technical teacher II
  8. Graduate/Approved/Technical teacher I
- \* P は Primaryの略、S は Secondaryの略である。すなわち P1 - P4は小学校教師、S1はセカンドグリーの教師を指す。
- \* Graduateは大卒教師を指し、Approvedは大卒ではないが、個人で大卒に相当するレベルまで勉強した教師、または Promotionで S1 以上まで上がった教師のことを指す。
- \* Senior graduate は Post graduate course(大学院レベル) を終えて、Ph-Dか Master を取得した教師、Senior Approved teacher は個人で Post graduateのレベルまで勉強した教師、または Promotion によってそのレベルまで上がった教師を指す。
- \* III - I までのグレード  
一般的に経験年数によってグレードが上がっていく。III - I に上がるほどグレードが高い。また新規大卒のものでも成績の善し悪しによって、グレードI またはIIから採用される場合もある。
- \* Promotion (昇格) について  
教育省では教師があるグレードから上のグレードに上げられる制度がある。この制度は Promotion on meritといわれ、教師は教育省からの応募調書、指導案を各ディストリクトの

教育局に提出する。その後、教育省のインスペクターがこの教師の授業を見学し、その評価はナイロビの本省に送られ、合否が決定される。なお一回プロモーションすると、5年間はそのプロモーションはできない。また2級以上のグレードに一回に昇進することは不可能である。すなわち P3 の教師がP1のグレードに一回のプロモーションで上がることはできない

(c) 最新の教師のサラリースケールについて (1994年9月23、24日付けのスタンダード新聞による)

TEACHERS NEW PAY					
Grade	Present Salary K.E.P.A	Present Salary W.E.P.U.M	Present Salary W.E.P.U.M	Present Salary W.E.P.U.M	New Salary W.E.P.U.M
			2414	3372	1668
p4	1017-1575	1128-1776	1485	1623	1723
p3	1272-2079	1416-2361	1530	1674	1778
			1581	1725	1830
p2	1550-2463	1722-2799	1632	1776	1884
			1686	1836	1947
			1740	1896	2010
p1	1959-3307	2217-4227	1884	1956	2073
			1934	2022	2145
S1	2463-4248	2799-5322	1914	2088	2217
			1974	2154	2289
			2024	2220	2361
UNTRAINED TEACHERS WITHOUT/ WITH COE					
			807	873	933
			840	915	972
UNTRAINED TECHNICAL TEACHERS					
			873	951	1011
			906	987	1050
			939	1023	1085
			972	1059	1121
			1008	1098	1167
			1044	1137	1206
			1080	1176	1248
			1116	1215	1290
			1152	1254	1326
			1188	1293	1374
			1227	1335	1416
UNTRAINED GRADUATE TEACHERS					
			1227	1335	1416
			1266	1377	1461
			1305	1419	1506
			1350	1470	1560
			1395	1521	1614
			1440	1572	1668
			1485	1623	1722
			1530	1674	1776
			1581	1725	1830
			1632	1776	1884
			1686	1836	1947
			1740	1896	2010
			1794	1956	2073

\* K.E.P.A. について  
 K.E. (ケニアポンド) は  
 ケニアポンドを20  
 ケニアシリングと換算  
 する。  
 p.a (per annual)  
 とは1年間(12ヶ月)  
 という意味である。  
 すなわちここに出ている  
 数字はすべて12ヶ月  
 分の給料(年収)で  
 ある。

# TEACHERS' NEW PAY

(331)

GRADUATE/APPROVED TECHNICAL TEACHER III		SENIOR GRADUATE/APPROVED TEACHER		SENIOR GRADUATE/APPROVED LECTURER	
PRESENT SALARY	NEW SALARY	PRESENT SALARY	NEW SALARY	PRESENT SALARY	NEW SALARY
W.E.F. 1933	W.E.F. 1934	W.E.F. 1933	W.E.F. 1934	W.E.F. 1933	W.E.F. 1934
3234	3528	4092	5460	5955	6918
3342	3645	4227			
3450	3762	4362	5634	6147	7140
3558	3879	4497	5808	6339	7362
3687	4020	4662			
3816	4161	4827			
3945	4302	4992	6012	6558	7872
4074	4443	5157	6216	6777	
4203	4584	5322	6420	6996	8127
4350	4743	5508	6624	7215	8382
4497	4902	5694	6828	7434	8637
4644	5061	5880	7062	7692	8937
-	5220	6066	7296	7950	9237
GRADUATE/APPROVED TECHNICAL TEACHER II ASSISTANT LECTURER		PRINCIPAL GRADUATE/APPROVED TEACHER		PRINCIPAL GRADUATE/APPROVED LECTURER	
PRESENT SALARY	NEW SALARY	PRESENT SALARY	NEW SALARY	PRESENT SALARY	NEW SALARY
W.E.F. 1933	W.E.F. 1934	W.E.F. 1933	W.E.F. 1934	W.E.F. 1933	W.E.F. 1934
3816	4161	4827		8466	9837
3945	4302	4992			
4074	4443	5157			
4203	4584	5322			
4350	4743	5508	6012	6558	7872
4497	4902	5694	6216	6777	
4644	5061	5880	6420	6996	8127
4791	5220	6066	6624	7215	8382
4938	5379	6252	6828	7434	8637
5122	5579	6474	7062	7692	8937
5286	5763	6696	7296	7950	9237
-	5955	6918	7530	8208	9537
-	6147	7140	7764	8466	9837
			7998	8724	10137
GRADUATE/APPROVED TECHNICAL TEACHER I LECTURER		PRINCIPAL GRADUATE/APPROVED TEACHER		PRINCIPAL GRADUATE/APPROVED LECTURER	
PRESENT SALARY	NEW SALARY	PRESENT SALARY	NEW SALARY	PRESENT SALARY	NEW SALARY
W.E.F. 1933	W.E.F. 1934	W.E.F. 1933	W.E.F. 1934	W.E.F. 1933	W.E.F. 1934
4497	4902	5694		9012	10470
4644	5061	5880			
4791	5220	6066			
4938	5379	6252	7062	7692	8937
5122	5571	6474	7296	7950	9237
5286	5763	6696	7530	8208	9537
5460	5955	6918	7764	8466	9837
5634	6147	7140	7998	8724	10137
5808	6339	7362	8262	9012	10470
6012	6558	7617	8562	9300	10803
-	6777	7872		9588	11136
-	6996	8127		9876	11469



(d) Teachers New Payのスタンダード記事のサラリースケール表の詳しい内訳について

Yearly Incrementについて

教師が新規で採用された年を初年度とすると、2年目、3年目と1年毎に昇給することができる。この1年毎の昇給額を Yearly Incrementという。

(例) 前ページの\* (例) Graduate/Approved/Technical Teacher III を参照

このカテゴリーのサラリースケールを見ると、一番上の数字は4092となっているが、これは初年度の年収(4092ケニアポンド)である。その下を見ると4227で初年度から2年目にかけての Yearly Increment は135ケニアポンドであることが分かる。それ以降135ケニアポンドの Yearly Increment が上乗せされていくが、表にもある通り、13年目以降(6066ケニアポンド以上)の昇給はない。(Promotionを除いて)\*  
その他のカテゴリー、グレードにおいても、昇給額は違うものの、考え方は同じである。

(e) サラリースケールの、教師のグレード別のブレイクダウン

(1) P4 -月給1880シリングから2960シリング

\*なお P4 から S1 まで記事に Yearly Increment の表がないため、昇給額のブレイクダウンは取得できなかった。

(2) P3 -月給2360シリングから3935シリング

(3) P2 -月給2870シリングから4665シリング

(4) P1 -月給3695シリングから7045シリング

(5) S1 -月給4665シリングから8870シリング

(6) Untrained teachers with/without KCPE 月給1555シリングから2360シリング

Yearly Incrementは1年毎39ケニアポンド、すなわち月給にして65シリング

(7) UT with KJSE/KCE Div IV KCSE D+ and below

月給2220シリングから3455シリング

Yearly Incrementは1年毎42ケニアポンド、月給にして70シリング

(8) UT with KCE Div I -III/KCSE C,C-,D KACE/KCSE C+ and above

月給2780シリングから4175シリング

Yearly Incrementは1年毎57ケニアポンド、月給にして95シリング

(9) UT technical 月給4175シリングから8045シリング

Yearly Incrementは1年毎72ケニアポンド、月給にして120シリング

(10) UT graduate 月給5725シリングから8595シリング

Yearly Incrementは1年毎129ケニアポンド、月給にして215シリング

(11) Graduate/Approved/Technical teacher III

月給6820シリングから10110シリング

Yearly Incrementは135ケニアポンド、月給にして225シリング

(12) Graduate/Approved/Technical teacher II

月給8045シリングから11900シリング

Yearly Incrementは1年毎165ケニアポンド、月給にして275シリング

- (13) Graduate/Approved/Technical teacher I.  
 月給9490シリングから13545シリング  
 Yearly Incrementは186ケニアポンド、月給にして310シリング
- (14) Senior Graduate/Senior Approved teacher  
 月給11530シリングから16395シリング  
 Yearly Incrementは222ケニアポンド、月給にして370シリング  
 \*一般的にセカンダリーの校長は、Graduate teacher I - II くらいのレベルと考えてよい。

## 8. 学費 ( School fees ) について

### (a) School fees の内訳

- (i) Boarding Equipment and Stores ( BES )  
 これは寄宿制のための施設の維持費である。
- (ii) School Equipment and Stores ( SES )  
 生徒のノート代、図書館の維持費、教科書代などである。
- (iii) Local Transport and Travelling ( LIT )  
 各行事における交通費、学校所有の車の維持費などである。
- (iv) Electricity, Water and Conservancy ( EWC )  
 これは電気、水道、またその他の施設のエネルギー代である。
- (v) Repairs, Maintenance and Improvement ( RMI )  
 学校施設の修理代、改造費などである。
- (vi) Personal Emoluments  
 Board of Governorsにかかる経費、また学校雇いのスタッフの給料などである。  
 \*その他、授業料 ( Tuition ), 入学金 ( Admision ), 薬代 ( Medical ) などがある。  
 実際の例は次ページを参照

### (b) 学期ごとの金額

多くの学校は1学期に全費用の50~60%を払い、2学期20~30%、3学期はほんのわずかな費用としている。これは、新しく入学してくる生徒は文房具をそろえたり、制服を注文したり、机、いすを注文したりと学校側もお金が必要であり、また生徒の親側も9~12月にかけて農作物を売り、この時期はお金を払いやすいという理由もある。基本的に校長は、学費を払わない生徒にたいして、定期的に追いつ返して、お金を持ってこさせるようにしているが、なかなか集まるものではない。また校長の非計画的、非人道的な生徒の追いつ返し方に批判の声も多い。

平均的に学費は Day school で1年間6000シリング前後、Boardingで10000シリングくらいである。

St. Gonzaga Conza Isoge Secondary Schoolの学費の例

Day Students (通学者) 1994

	1st term	2nd term	3rd term	Total
Tuition Fee	1200	500	300	2000
Lunch Fee	700	300	200	1200
RMI Fee	200	150	50	400
EWC Fee	200	100	-	300
LT&T Fee	200	100	100	400
Contingencies Fee	100	100	100	300
B.O.G Fee	350	200	50	600
Activity Fee	200	50	50	300
Medical Fee	100	-	-	100
Totals	3250	1500	850	5600

Boarders (寄宿生)

	1st term	2nd term	3rd term	Total
Tuition Fee	1200	500	300	2000
Boarding	3000	1200	600	4800
RMI Fee	200	150	150	400

<b>EWC Fee</b>	<b>200</b>	<b>150</b>	<b>150</b>	<b>500</b>
<b>LT&amp;T Fee</b>	<b>200</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>400</b>
<b>Contingencies Fee</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>100</b>	<b>300</b>
<b>B.O.G Fee</b>	<b>750</b>	<b>150</b>	<b>-</b>	<b>900</b>
<b>Activity Fee</b>	<b>200</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>300</b>
<b>Medical Fee</b>	<b>150</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>150</b>
<b>Totals</b>	<b>6000</b>	<b>2400</b>	<b>1350</b>	<b>9750</b>

## 9. 生徒の1日の生活

### (a) Week Day( Boardingの Daily Routineの一例)

6:00	Wake up
6:15 - 6:45	General cleaning of the compound, classrooms and dormitories
6:50 - 7:15	Breakfast
7:20 - 7:55	Preparation
7:55 - 8:10	Assembly( Monday, Wednesday, Friday )
8:15 - 8:55	1st period
8:55 - 9:35	2nd period
9:35 - 10:15	3rd period
10:15 - 10:35	Tea break
10:35 - 11:15	4th period
11:15 - 11:55	5th period
11:55 - 12:35	6th period
12:35 - 13:40	Lunch Break
13:45 - 14:25	7th period
14:25 - 15:05	8th period
15:05 - 15:45	9th period
15:45 - 17:15	Games( Monday, Tuesday, Thursday ) Clubs( Wednesday ) Cleaning and Community work( Friday )
17:45 - 18:00	Supper
18:30 - 21:00	Evening preparation
21:30	Go to bed and light out

日程等は異なるが、ケニアのセカンダリースクールの典型的な Daily Routineである。  
なお、Day Schoolの場合は、通常 8:00 頃に 1st period が始まり、5:00頃課外活動が終了するところが多い。

### (b) Saturday and Sunday

通学生はもちろん週末の日程はない。すなわちここでは Boarding Schoolの例を示す。

#### SATURDAY

6:00	Wake up
6:15 - 7:15	General cleaning of the compound, classrooms and washing
7:15 - 7:30	Breakfast
7:35 - 8:00	Preparation
8:00 - 10:15	Weekly tests
10:15 - 10:30	Tea break

10:30 - 12:30	Preparation
12:30 - 14:00	Lunch break
14:00 - 17:00	Private study, games, dancing etc
17:45 - 18:00	Supper
19:00 - 21:00	Entertainment
21:30	Light out

#### SUNDAY

7:00	Wake up
7:00 - 8:20	Breakfast
8:20 - 10:30	Sunday service
10:30 - 11:00	Tea break
11:00 - 12:35	Preparation
12:35 - 14:00	Lunch break
14:00 - 15:00	Preparation
15:00 - 17:00	Games, Private Study
17:00 - 18:00	Supper
18:00 - 21:00	Evening Preparation
21:30	Light out

### 10. 課外活動について

課外活動は、クラブ活動、Games, 畑の手入れ、宗教活動などがあり、曜日によってその内容が決められている。

#### (a) クラブ活動

クラブ活動は、週一回顧問が中心となって行われるもので文化部が主体となっている。

##### (i) Drama Club(演劇部、ダンス部)

ケニアではポピュラーなクラブで部員数も多い。年一回のコンクールのための劇のシナリオを自作したり、練習をしている。英語劇とスワヒリ語劇、トラディショナルダンス、スワヒリの詩などに分かれて審査があるため、劇のみならずダンスも盛んである。またコンクールだけでなく、村、教会等の集会などでこの部が活躍することも多い。

##### (ii) Debating Club(弁論部)

ケニアのTVプログラムの中でしばしば弁論大会のようなものを行っているのを見るし、ケニア人は議論が好きだが、ナショナルレベルの大会はない。学校ごとに招き合って議論しあったり、週ごとにテーマを決めてクラブ内で弁論大会をしたりしている。議論内容のみではなく、スワヒリ、英語のアクセント発音、リズム、表現力も大切である。

(iii) Wildlife Club, Young Farmers Club, Agriculture Club

名はさまざまだが、主に畑を耕し、作物を育てる。実験を行って結果を Agriculture Show で発表したり、収穫物を売って School Fee の足しにしたり、あるいはそれでパーティーをしたりすることもある。

(iv) C.U ( Christian Union ), C.A ( Christian Association ), Y.C.S ( Young Christian Society )

これらは宗教関係のクラブで、奉仕活動、教会の清掃、畑の管理、聖書研究、映画鑑賞等の活動をする。また牧師を招いて話を聞いたり、パーティーをすることもある。

(V) Music Club ( 音楽部 )

トラディショナルなものから賛美歌まで幅広い歌、楽器をこなす。これも大会がある。

(vi) Boy Scout (ボーイスカウト)

ケニアでは毎週月、金に国旗を掲げ、国歌を歌うことが義務づけられており、その時のリーダーとなるのがこのクラブの生徒たちである。この部は他にも学校の様々な活動のリーダーとして活躍することが多い。

\*その他 Kiswahili Club, Science Club, などがある。

(b) ゲーム

Games は放課後の体育活動として週3回程度行われる。種類としてサッカー、バレーボール、ネットボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、陸上、ホッケーなどがある。それぞれ大会があるのでサッカー、バレーボール、ネットボールなどは普段からよく練習をやっているが、陸上などはしばしば直前にしか練習しなかったりする。

(c) 大会について

(i) 文化部

1st term に Drama & Cultural Festival, 2nd term には Music Festival と Science Congress がある。各 Festival は District レベルから始まり、Provincial, National レベルと進んでいく。

(ii) スポーツ

スポーツ大会は 1st term が球技、2nd term が陸上競技といったように種目によって開催時期が異なっている。大会は Zonal ( District の下のレベル ) から、District, Provincial, National と進んでいく。

11. DUTY について

Duty とは教師の行う日直のことであり、1週間交替で ( Boarding は土、日も含む ) 各週1人づつ 1 term およそ2~3回の割合というパターンで行われている学校が圧倒的である。

(a) Duty の内容

・ 清掃の指示、監督

- ・ 生徒の外出許可を出す
- ・ 生徒の服装のチェック
- ・ Assemblyへの参加
- ・ 手紙の配布
- ・ 鍵の管理
- ・ 遅刻者のチェック
- ・ 生徒へのパニッシュメント

\* Boarding School の場合は以上の仕事に加え、Evening Preparation の監督の仕事が入る場合が多く、ほとんど1日中夜の10時近くまで学校につめっきりの日を過ごすことになる。

(b) Holiday Dutyについて

すべての学校ではないが、一部の学校では4月、8月、12月の休み中にも Duty が課される場合がある。通常数日間でこれといった仕事はないが、学校の敷地内に1日中いなくてはならず、学校の Worker のチェック、訪問者のチェックなどを行う。

12. 校務分掌について

各教師はそれぞれ教科の授業以外に学校運営にかかわる役割を受け持たされる。詳細は下記参照

1. The classmaster/mistress should make sure that all the students are in class by conducting a roll call or making registers every day.
2. The classmaster/mistress should make sure that discipline is observed in his/her class.
3. The dormitorymaster/mistress must always check that students live in clean places, well arranged beds and with dry towels etc. He/she should always make sure that students sleep in time and well.
4. The gamesmaster/mistress must always make sure that students go to the field in the right school uniform.
5. The gamesmaster/mistress must make sure that the ball, nets, etc are properly maintained all the time.
6. The librarymaster/mistress must make sure that the books, magazines etc are put in order.
7. The science roommaster/mistress must make sure that the rooms and equipment are put in order.

13. 校則と罰

禁止事項は日本とそう違いはない。ケニア特有なものとして

- ・ 部族語の使用
- ・ 男女交際 (特に妊娠)



- ・ 制服以外の服の着用
  - ・ 長髪
  - ・ 日曜日の無断外泊
  - ・ 帰寮時間の遅れ
  - ・ 訪問者との無断面会
  - ・ 消灯後のおしゃべり
- 寮生の場合

\* 代表的な Punishment

- ・ むち打ち (尻、太もも、手のひら)
- ・ 草刈り
- ・ 畑仕事
- ・ 薪集め、薪割り
- ・ 掃除
- ・ 停学

校則と Punishment は各校ともほとんど共通している。寮生の場合にはこれに寮生活の規則が加わる。部族語の使用禁止は多部族国家ならではの規則であろう。各校とも英語、スワヒリ語以外の使用は禁止されている。

問題点として上げられるのは罰のために生徒が授業に出れないことが頻繁にあることであろう。教室に行くと生徒が半分くらいしかいなく、理由を聞くと Punishment で草を刈っているというようなことがある。

14. Scheme of work

Scheme of workは教師が作ることを義務づけられている指導案で、学期ごとの指導案と週ごとのものと2種類あり、学期ごとのものは学校保存、教科マスター、自分用と3つ作り、週案は自分用だけでよいが、学校によっては校長が毎週厳しくチェックすることもある。

15. 学校で使う用語

ここでは学校でよく使われる用語の解説を載せることにした。

Headmaster	校長
Headmistress	校長(女性)
Deputyheadmaster	教頭
Classmaster/mistress	学級担任
Gamesmaster/mistress	体育主任
Prefect	学級委員長
Senior prefect	生徒会長
School captain	生徒会長
Headboy/headgirl	生徒会長

Games captain

Time keeper

Class monitor

Prep

Teachers copy

Double

Practical

Duster

Rub

Exercise book

Rough paper

Past paper

Staff meeting

Register

Late-comer

Absentees

体育委員長

タイムキーパー (授業の開始、終了を知らせる)

学級委員

自習時間

教師用の教科書

同じ科目が2時限続くこと

実験

黒板消し

黒板を消すこと

ノート

計算用紙

過去の試験問題

職員会議

出席簿

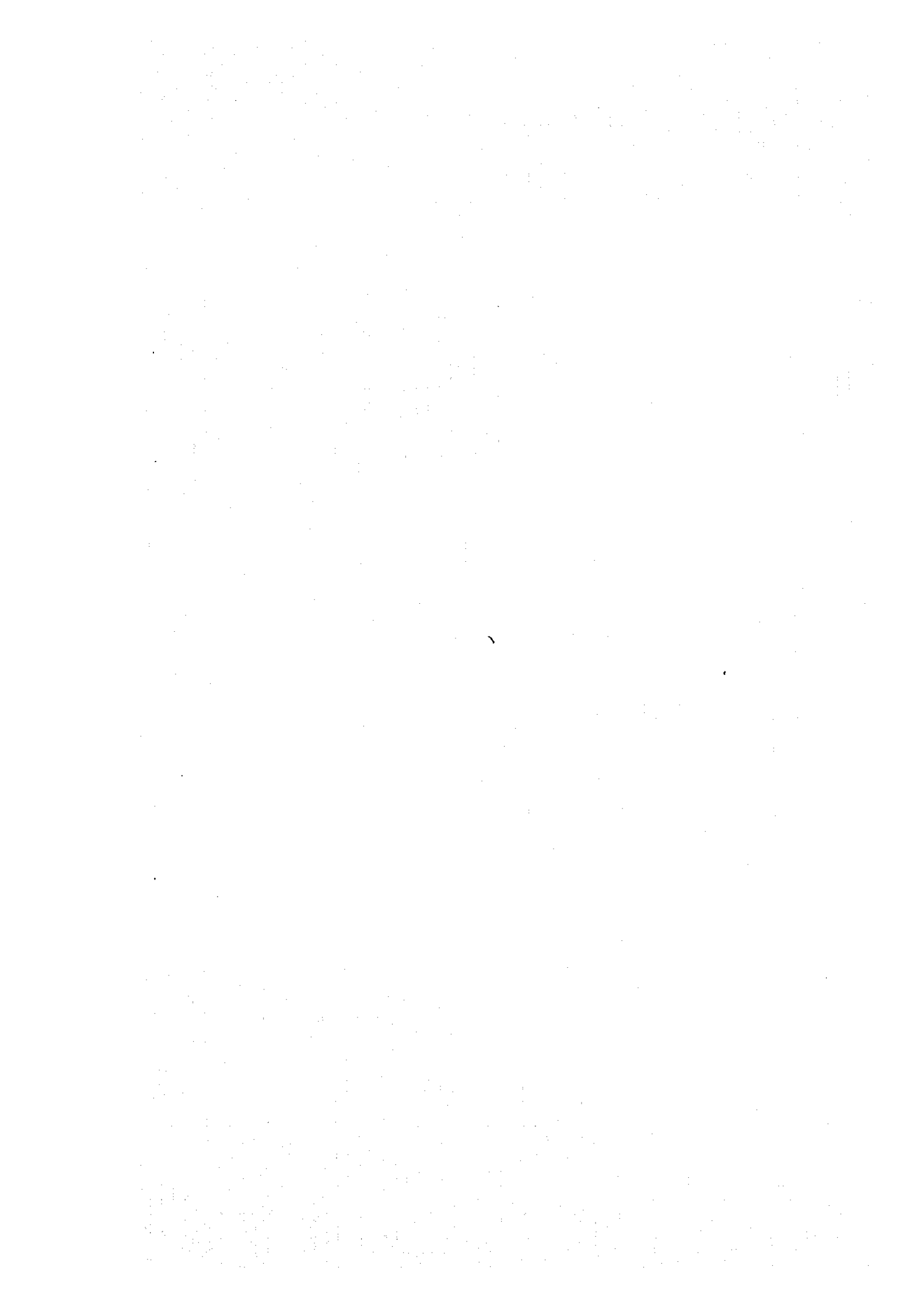
遅刻者

欠席者









JICA